

記 入 日 2012 年 01 月 18 日

## 1. 概 要

実践団体名	みえ防災コーディネーター・三酒ブロック		
連絡先	090-1569-2629		
プランタイトル	ぼうさい・どなべ 『炊き出し君』		
プランの対象者※1	小学生（中・高学年） 保護者・PTA 地域住民	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント！】

1. 学校教育の中で、『つくる』『食べる』楽しさを通して、防災を体験的に学習する。
2. 災害のイメージや減災への創造力を培い、自分を守る力、生きる力、助け合う力を身につけ、防災の担い手を拓ける。

## 【プランの概要】

- 1 小学校の3～6年生を対象にして、地元四日市の特産品である万古焼を活用した土鍋を防災学習に取り入れ、90分間の炊き出し体験学習を、保護者を交えて実施する。
- 2 子どもたちがデザインし、絵付けをした「土鍋」を使用することで、保護者を含めて、電気・ガス炊飯器によるボタン一つで炊いたご飯しか知らない子どもたちに、「水加減」「火加減」という先祖の知恵を伝承する。
- 3 お米の浸し時間(15分)と蒸らし時間(10分)を利用して、映像とクイズによって、災害を知り、備えを学ぶ防災学習を行う。
- 4 子どもたちの体験を家庭に持ち帰って話し合ってもらうことにより、家庭における防災力向上に寄与する。

## 【期待される効果・ここがおすすめ！】

1. 保護者や地域の自治会・子ども会等の参加により、地域における防災コミュニティーづくりを体験し地域づくりにつながる。
2. 『土鍋』という小さな鍋を使用することにより、災害時に隣近所の小さな単位で協力して『食』を確保する防災コミュニティーづくりにつながる。(身近にある鍋・釜でも応用可能。)
3. 小さな単位でつくることにより、アレルギー対応食や病人食にも応用が出来、災害時要援護者対策につながる。

## 2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	年間計画 炊き出し訓練立案	四日市市教育委員会 事業導入要請	
5月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案	
6月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案と打合せ	
7月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案と打合せ	津市立安東小：3～4 限
8月	八郷地区・羽津地区 防災訓練炊き出し 訓練プラン作成	八郷地区・羽津地区防 災担当役員と炊き出し 訓練事業打合せ	四日市市八郷地区防災訓練、デモ参加 4 会場設定実施
9月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案と打合せ	四日市市立三重小：5～6 限 四日市市羽津地区防災訓練、デモ参加
10月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案と打合せ 津市敬和地区第 4 自主 防災会役員と打合せ	四日市市立楠小：5～6 限 日永小：5～6 限、四郷小：3～4 限 海蔵小：5～6 限、神前小：3～4 限 津市敬和地区第 4 自主防災会訓練
11月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成  四日市 JC 用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案と打合せ  四日市 JC と 事業打合せ	四日市市立羽津小：5～6 限 西橋北小：3～4 限、大谷台小：3～4 限 富田小：5～6 限、中央小：5～6 限 保々小：5～6 限 四日市 JC まちづくり事業における 特産品(土鍋)を使った炊き出し体験
12月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案と打合せ	四日市市立三重西小：5～6 限 水沢小：3～4 限、三浜小：5～6 限
1月	各小学校用炊き出 し訓練プラン作成	各小学校を訪問 事業提案と打合せ	四日市市立東橋北小：5～6 限 小山田小：5～6 限、中部西：5～6 限 内部小：5～6 限
2月	一年間の活動の反 省と課題検証	活動記録 体験感想文整理、検証	四日市市立川島小：3～4 限(予定) 滋賀彦根工業高・亀山小・三泗ブロッ ク合同交流訓練(予定)
3月	一年間の活動の反 省と課題検証	活動記録 体験感想文整理、検証	四日市ボランティアフェスティバル デモ参加(予定)

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：実践添付資料・事例 1】※3

タイトル	四日市市八郷地区総合防災訓練避難所運営訓練(炊き出し訓練)参加
実施月日(曜日)	2011年8月28日(日)
実施場所	八郷小学校・八郷西小学校・朝明中学校・私立暁学園中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：みえ防災コーディネーター三泗ブロック氏 名：本田榮、山岸卓彦、飯田明夫、西脇秀彦、加藤弘直、遠藤克巳、北河勝彦 所属・役職等：三泗ブロック幹事、会員
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要総時間：100分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難所運営訓練
活動目的※5	大人と児童が協力して避難者数より少ない食材でご飯を炊き、人数分に配分する。
達成目標	大人と児童が協力し合って目標を達成
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	避難所に避難して来た人達の人数の報告を受ける 土鍋に米・水を計量している 10分間浸したあとガスコンロに点火 中火→強火→火止め→蒸らし(10分間) 人数分に分配 後片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	三泗ブロック7名参加 炊き出し部門として・地区防災倉庫備蓄土なべ使用の「炊き出し君」 炊き出し部門担当訓練 道具：土鍋、カセットコンロ、ガスボンベ、ラップ 計量カップ、しゃもじ、軍手 材料：米(自治会負担)、水
参加人数	八郷小学校：20名 八郷西小学校：20名 朝明中学校：20名 私立暁学園中学校：20名
経費の総額・内訳概要	ガスボンベ等消耗品代として2,000円程度
成果と課題	【成果】災害時に与えられた食料だけに頼らず、自分達で作るということで、大人・子供の区別なくコミュニケーションがつけれる。少ない食材でどのようにして全員に配分するかが分かり充分成果はあった。 【課題】訓練時間に制限されたこともあり、炊飯時間に余裕がなかった。土鍋を使って、ご飯以外の食糧も作っていく必要もある。
成果物	従来のアルファー米一辺倒でなく、暖かい、おいしいご飯が食べられることに参加者からも喜びの声が出ていた。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号：実践添付資料・事例 2】** ※3

タイトル	四日市市・市立 楠小学校『炊き出し君』体験防災学習
実施月日（曜日）	2011年10月4日（火） 5～6限（休憩なし95分体験）
実施場所	四日市市市立 楠小学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：みえ防災コーディネーター三泗ブロック氏 名：田中一徳、飯田明夫他三泗ブロック会員9名 所属・役職等：三泗ブロック会員・幹事
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要総時間：95分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的防災学習＋体験学習＋避難・防災訓練
活動目的※5	楽しみながら＋災害を想定した＋防災意識を高め＋災害対応能力の育成
達成目標	限られた時間内でのすべての目標課題消化、充分達成
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	{あいさつ・注意5分＋炊き出し準備10分＋地震防災学習20分＋炊き出し体験20分＋地震学習・クイズ10分＋試食とあとかたづけ25分＋おわりのあいさつ5分}
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	三泗ブロック会員11名参加 24班 編成体験実施 道具：土鍋、カセットコンロ、ガスボンベ、紙小皿、ラップ、計量カップ、しゃもじ、軍手、フォーク 材料：米（子供たちが体験栽培・収穫したものを使用）、水
参加人数	5年生118名＋担当教諭5名＋保護者、自治会関係15名
経費の総額・内訳概要	米は児童収穫米使用、ガスボンベ等消耗品代として2,000円程度
成果と課題	【成果】 限られた時間ないで、プランの目的・目標をクリアし子供たちに伝えたい内容が充分伝わり、期待した効果が達成できたと確信できた 【課題】 実践目標はすべて消化できて大筋での課題は発生していない、細部の対応では修正対応課題は発生を確認、次での修正を確認できている
成果物	生徒の感想文 (企画目的が子供たちに伝わっていることが確認でき、充分手ごたえのある事業となった)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：実践添付資料・事例 3】※3

タイトル	四日市市・市立 大谷台小学校『炊き出し君』体験防災学習
実施月日（曜日）	2011年11月14日（月） 5～6限（休憩なし100分体験）
実施場所	四日市市・市立 大谷台小学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：みえ防災コーディネーター三泗ブロック氏 名：本田榮、西脇秀彦他三泗ブロック会員8名 所属・役職等：三泗ブロック幹事
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要総時間：100分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的防災学習＋体験学習＋避難・防災訓練
活動目的※5	楽しみながら＋災害を想定した＋防災意識を高め＋災害対応能力の育成
達成目標	限られた時間内でのすべての目標課題消化、充分達成
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	{あいさつ・注意5分＋炊き出し準備15分＋地震防災学習20分＋炊き出し体験20分＋地震学習・クイズ10分＋試食とあとかたづけ25分＋おわりのあいさつ5分}
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	三泗ブロック会員10名参加 16班 編成体験実施 道具：土鍋、カセットコンロ、ガスボンベ、紙小皿、ラップ、計量カップ、しゃもじ、軍手、フォーク 材料：無洗米、水、ふりかけ
参加人数	4年生・95名＋担当教諭4名＋保護者参加共同作業50名
経費の総額・内訳概要	ガスボンベ、無洗米他約5000円
成果と課題	【成果】 限られた時間ないで、プランの目的・目標をクリアし子供たちに伝えたい内容が充分伝わり、期待した効果が達成できたと確信できた 【課題】 実践目標はすべて消化できて大筋での課題は発生していない、細部の対応では修正対応課題は発生を確認、次での修正を確認できている
成果物	生徒の感想文 (企画目的が子供たちに伝わっていることが確認でき、充分手ごたえのある事業となった)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。





#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案と調整で苦勞した点工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初、地元四日市の特産品である万古焼を活用、子どもたちが絵付けをした「土鍋」を使った炊き出し体験学習というプランを立案しました。</li> <li>・ このことは、地場産品と防災のコラボレーションということで、四日市市の「個性あるまちづくり支援事業」に採択されました。</li> <li>・ しかし、落とせば割れるような「土鍋」を、災害時の炊き出しを想定した防災学習に使用するのには疑問である、それもわざわざ地域で購入して取組むなんてありえないという声が大きく、この事業は暗礁に乗り上げかけたというのが実態でした。</li> <li>・ しかし、取組む中で、電気・ガス炊飯器によるボタン一つで炊いたご飯しか知らない子どもたちに、「水加減」「火加減」を教えるのに「土鍋」は最適であるということが分かりました。</li> <li>・ そして、炊き出し訓練の合間(米の浸し時間と蒸らし時間)に、映像やクイズを通して防災学習(災害を知り、備えを学ぶ)を行うことが出来るのも「土鍋」の利点であることも分かりました。</li> <li>・ また、「土鍋」という小さな鍋を使用することで、災害時に隣近所の小さなグループで協力して『食』を確保するという防災コミュニティーづくりにもつなげることが出来ます。いざという時には、「土鍋」でなくても身近にある鍋釜でも応用は可能です。</li> <li>・ まさに、『つくる』『食べる』楽しさを通して、防災を体験的に学習するのに「土鍋」は最適の材料であるわけです。</li> <li>・ さらに、子どもたちが絵付けをした「土鍋」を使うことにより、「土鍋」が万古焼という日本で有数の地場産品であり、その生産量は、日本全体の80%であることを学ぶこともできます。</li> <li>・ また、この絵付けを通して、世界に一つしかない土鍋を作る喜びと使用する喜びを体験することも出来ます。</li> <li>・ プランの立案で工夫していることは、できるだけ小規模の班編成にすることにより、全員で役割分担し協力して作業することの大切さを学ぶことです。</li> </ul>
<p><b>準備活動で苦勞した点工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各小学校を訪問し、事業提案する際、学力向上にむけて大変忙しく防災までとても手が回らない、安心して任せられるのか不安だという状況の中で、教師に負担がかかることなく、元々教えなければならない「水加減」と「火加減」を含めて、いかに楽しく、且つ、集中して学べるかを感想文の事例を通して説明して、安心してもらうことに苦勞しています。</li> <li>・ 失敗は許されない教育活動に対して、「炊き出し体験学習」は失敗から学ぶことも目的としていること。従って、私たちもそうであるが、先生方も含めて、必要な説明以外は、子どもたち自身に判断させ、余計な口出し、手出しはしないことを、事前に確認するようにしています。</li> <li>・ プランを作成し、事前説明を行うのに2～3回は訪問し、先生方の役割、私たち防災コーディネーターの役割、子どもたちの役割を確認するようにしています。</li> </ul>
<p><b>実践に当たって苦勞した点工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間21校の取組みを36人の会員でこなすのは一苦勞です。 特に、大規模校の場合は一学年で150名を超える人数であり、一班6人としても24班となります。 小学校での「体験学習」は平日の開催となり、私たち三河ブロックの会員の半数以上が、まだ現役で仕事をしていますので、協力者は最高でも15～16人です。</li> <li>・ 火を扱う作業であり、しかも相手は子どもですから、できるだけ一人一班の体制で、「体験学習」を実施したいと考えていますが、厳しい状況です。工夫と言っても一人で二班ないし三班を担当するしかありません。</li> <li>・ 会員の拡大が急務ではありますが、困難であることから、地域の自主防災組織との連携が不可欠であり、今後の重要な課題であります。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	四日市市教育委員会 津市立安東小学校 四日市市立三重小学校、楠小学校、日永小学校、四郷小学校、海蔵小学校、神前小学校、羽津小学校、西橋北小学校、大谷台小学校、富田小学校、中央小学校、保々小学校、三重西小学校、水沢小学校、三浜小学校、東橋北小学校、小山田小学校、中部西小学校、内部小学校、川島小学校  滋賀、彦根工業高校及び亀山小	教育委員会として各小学校に紹介  各小学校において、「土鍋を使った炊き出し訓練」を防災教育の一環として位置付け 2 時限を付与協力、協働して実施。 校区内の自治会・防災連絡協議会・保護者会等に紹介。 県内外への活動展開と交流（滋賀他）
保護者・ PTAの組織	事業実施小学校における PTA組織、学年保護者会	PTA及び保護者会として訓練に参加協力
地域組織	事業実施小学校区の自治会連合会、防災連絡協議会	校区内の自治会・防災組織として訓練に参加協力 地区防災訓練の一環として「炊き出し訓練」を実施
国・地方公共団体・ 公共施設	三重県四日市市民センター 四日市市危機管理室 事業実施小学校区における四日市市市民センター地域マネージャー  四日市市市民文化部  四日市市社会福祉協議会	県・市の防災訓練において、ブースを提供 炊き出し体験活動を紹介 四日市市における「個性あるまちづくり事業」に位置付け支援 市内のボランティア団体の活動として「炊き出し訓練」を支援紹介
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	四日市市青年会議所  四日市市社会福祉協議会に登録するボランティア団体	青年会議所の行う「まちづくりイベント」での出店協力 ボランティアフェスティバルにおいて「炊き出し訓練」ブースを提供
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校の意識が変わった—小学校と地域との連携に貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組み始めて本年度で3年目ですが、当初は取組み校も少なく、且つ、授業の一環としての取組みがほとんどで、対象は生徒のみでした。</li> <li>・ 本年度は、東日本大震災の影響もあると思われますが、取組まれた21校のほとんどが校内だけの取組みとせず、地域・保護者にも参加を呼び掛け、地域とともに防災を取組もうという姿勢が見られました。</li> <li>・ 学力向上にむけて大変忙しく防災までとても手が回らないという状況から、地域と連携した防災教育の必要性が理解されるようになりました。</li> </ul> </li> <li>2 生徒たちの防災意識が向上した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験学習後の「感想文」で明らかになったことは、「炊き出し訓練」と併せた「映像」と「クイズ」による防災学習により、電気・ガス・水道が途絶した災害をイメージすることが出来るようになり、自分を守るという基本を理解するようになりました。</li> <li>・ 「地震のメカニズム」や「緊急地震速報」「災害伝言ダイヤル171」「家具の転倒防止」などの知識を拡げることが出来ました。</li> <li>・ 万が一の時には、人の役に立ちたい、「食」を確保するため協力し合うことの大切さを学んだと表現する子どもが多く見られました。</li> <li>・ 皿がなかったら、箸がなかったらどうしたらいいのか、ラップがあったのでそれを利用しよう、身近にあるものを活用しようという応用力、創造力を培うことが出来ました。</li> </ul> </li> <li>3 家庭の防災力向上に貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感想文には、自宅に帰ってから、家族で話題になったことが多く書かれています。防災に係る家族会議や我が家の耐震対策につながるきっかけづくりに貢献していると思います。</li> </ul> </li> </ol>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 『食べる』ということは、人が生きていく上での基本ですから、『食』を切り口として防災を学ぶことは非常に効果的です。</li> <li>2 併せて、人が生きていく上で欠かせないものがコミュニティです。『食』を通しての防災コミュニティづくりは、災害時、被災住民自身が主体的に復旧・復興を進める上で極めて重要であると思われます。</li> <li>3 平常時においても、地域の防災訓練等でコミュニティづくりを意識的に追求することは重要です。</li> <li>4 この取組みは、『食』を通してのコミュニティづくりを狙いとしたところに特徴があります。『食』を通しての防災コミュニティづくりは、地域防災力の向上にむけて最適なプランとされますので、四日市に限らず、多くの地域に拡げていきたいと思っています。</li> <li>5 そのためにも、保護者だけでなく、地域の自治会、自主防災組織の方々への参加を得ることにより、地域の防災コミュニティづくり、地域づくりへの波及、発展を図りたいと考えています。</li> <li>6 地域の防災訓練では、「つくる人」と「食べる人」に分かれるのではなく、「土鍋」を囲んで、子どもからお年寄りまでの参加者全員が、みんなで「つくって」「食べる」ことが、楽しく豊かな地域のつながり、コミュニティづくりになると確信しています。</li> </ol>
<p>今後の 継続予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次のステップは、「学校との連携」から「学校を含めた地域との連携」へ拡げること。</li> <li>2 そのことが、『次世代育成』『世代間交流』『地域防災コミュニティづくり』につながる取組みになると考えています。</li> <li>3 他の切り口とのコラボレーションも含めて、発展的に継続することにより、地域防災力の向上に寄与したいと考えています。</li> </ol>



## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

### ぼうさい・どなべ『炊き出し君』企画実施 2011 年度実績(一部予定)一覧

#### 【「土鍋を使用した炊き出し訓練」の実施確定校一覧】・・・ 小学校対象

- ① 07/01(金) 津・安東小学校5年生 22名 4班 10:30~12:30
- ② 09/22(木) 三重小学校6年生 73名(保護者参加) 16班 5・6限(13:40~15:10)
- ③ 10/04(火) 楠小学校5年生 118名 24班 5・6限(13:35~15:10) — 実践事例 2
- ④ 10/14(金) 日永小学校3年生 115名(保護者参観) 18班 3・4限(10:45~12:20)
- ⑤ 10/18(火) 四郷小学校6年生 77名 12班 3・4限(10:45~12:20)
- ⑥ 10/20(木) 海蔵小学校4年生 152名(保護者参観) 24班 5・6限(13:30~15:10)
- ⑦ 10/27(木) 神前小学校2年生 51名(保護者共同事業) 12班 (9:00~10:35)
- ⑧ 11/01(火) 羽津小学校4年生 65名 12班 5・6限(13:40~15:10)
- ⑨ 11/12(土) 西橋北小学校5・6年生 54名(保護者参観) 12班 3・4限(10:45~12:25)
- ⑩ 11/14(月) 大谷台小学校4年生 95名(保護者参加) 16班 5・6限(13:40~15:20) 一事例 3
- ⑪ 11/15(火) 富田小学校5年生 102名(保護者参観) 18班 5・6限(13:45~15:25)
- ⑫ 11/22(火) 中央小学校3年生 38名(保護者参観) 8班 3・4限(10:30~12:10)
- ⑬ 11/25(金) 保々小学校4年生 90名(保護者共同事業) 18班 5・6限(13:40~15:10)
- ⑭ 12/01(木) 三重西小学校5年生 68名(保護者参加) 12班 5・6限(13:40~15:10)
- ⑮ 12/08(木) 水沢小学校4年生 37名(保護者参加) 9班 3・4限(10:45~12:25)
- ⑯ 12/13(火) 三浜小学校4年生 12名(保護者参加) 3班 5・6限(13:40~15:10)
- ⑰ 01/13(金) 東橋北小学校5・6年生 22名(保護者参観) 6班 5・6限(13:40~15:10)
- ⑱ 01/17(火) 小山田小学校4年生 33名 8班 5・6限(13:40~15:10)
- ⑲ 01/26(木) 中部西小学校4年生 67名 16班 5・6限(13:40~15:10) (予定)
- ⑳ 01/30(月) 内部小学校3年生 92名(保護者参加) 18班 3・4限(10:45~12:20) (予定)
- ① 02/06(月) 川島小学校5年生 139名(保護者参加) 20班 2・3限(9:40~11:10) (予定)
- ② 02/ ? 滋賀県、彦根工業高/亀山小 コラボ訓練実施 (予定)

#### 【「土鍋を使用した炊き出し訓練」の実施地域一覧】・・・ 地域訓練参加、他組織デモ協力

- ① 08/28(日) 八郷地区防災訓練4会場(八郷小・八郷西小・朝明中・暁中) — 実践事例 1
- ② 09/11(日) 羽津地区防災訓練(羽津小)
- ③ 09/25(日) 港地区避難所運営訓練(なや市民活動センター体育館)
- ④ 10/23(日) 津・敬和地区第4自主防災会 土鍋を使用した炊き出し訓練
- ⑤ 11/20(日) 四日市 JC まちづくり事業『五感で学ぶ四日市~歴史、伝統・文化からまちを知ろう~』  
(四日市市民公園広場一アピタ四日市店前 14:00~17:45)  
特産品体験ブース：土鍋を使った炊き出し体験(15:35~17:00)
- ⑥ 3/31(土) 四日市市ボランティアフェスティバル 土鍋を使用した炊き出し訓練、他関連デモ参加

四日市市内・小学校での体験実践状況（2011年）



**班別実践体験挑戦中！  
全員参加訓練をめざして**

学校での防災学習を实践で  
「食べる・つくる」をみんな  
で協力しながら、防災を体験  
的に学習する環境提供の現場

**集中して防災学習**



**ライフライン断絶・備蓄品  
活用で食の確保・水加減、  
火加減、旨く炊けたか試食**

(自由記述: 2/3)



## 「ぼうさい・どなべ『炊き出し君』実践学習」参加感想文

2011(平成 23)/11/22実施 四日市市立 中央小学校(3年生38名)父兄共同体験参加

### (体験児童の感想事例)

◎たきだしたいけんをはじめてしていろいろなことを学しゅできました。お皿にラップをするのがびっくりでした。クイズでは地しんの時どうするのかなと分からないことも、わかりました。東北の地しんは、つなみで学校の体育館はまるのみ、それがこわかった。30年後までには60～70%のかくりつで東南海地しんがおきるのではとの話しもきいて、そんなのがきたら生きられるのかな?お母さんや家族はどうなのかと考えました。ごはんはとてもおいしかった、地しんはいやだけど、たきだしたいけんは楽しかったので、またしたいと思います。

◎わたしは、土なべでごはんをたくのははじめてでした。でも分かりやすかったし、上手にたけてよかったなと思いました。それに地しんや津波がきても、たけるようになったのがいいなと思いました。三重県のも20年後や30年後までには東南海地しんがくるかもしれない事が分かったし、今では地しんが来る前に合図をしてくれるきかいがあり、ぎじゅつがすすんでいるんだなと思いました。東南海地しんが来たら

2Mや3Mの津波が来ると予想だと言っていましたが、それよりも、もっと高い津波が来るかもしれないので心がまえがたいせつだと思いました。

### (体験参加父兄の感想事例)

◎いつ起こるかかわからない災害に対して準備・練習できる機会が持てたことに感謝しています。子どもたちにとっては“楽しい体験”の一部だったのかもしれませんが、この経験はいつか必ず思い出して役に立つと信じています。(できれば災害は経験しなくてすめばいいですが・・・)自分の身は自分で守る、周りの人と助け合うなど普段の生活の中で、災害に遭遇したときにきちんと対処できる力を身につけていってほしいと願っています。

防災コーディネーターの方々や学級委員さんには大変お世話になりありがとうございました。

◎たき出し体験では、土鍋でとてもおいしくご飯をたく事ができました。

実際に災害の時には“水”が一番必要と言われているのは知識にありましたが、今日の体験のように、無洗米を使って米を洗う作業を省いたり、紙皿にラップを敷いて皿を洗う作業をなくす事なるべく水を使わないようにと、水の大切さを感じました。

コーディネーターの方が子供たちに、いつ起こってもおかしくない地震に対しての意識や心がまえなどを教えてもらえて、とてもいい勉強になったと思います。忘れてはいけない

“3・11”の地震の恐さや体験など日ごろから子供たちに伝え続ける事も大事ななあとも思いました。

(自由記述: 3/3)